

とら 浦 鞆

散策絵地図

海部城下の港町

「島弥九郎事件」の舞台となった「那佐港」
弥九郎を乗せた船は、嵐を避けるために
入港し、数日を過ごしたといわれますが、
阿波進攻のための偵察とみなされ、
監視役「海部三郎」の軍勢に
よって討ち取られたといひます。

那佐「吉野神社」の境内には
「長宗我部親房（島弥九郎）
鎮魂碑」があります。

鞆の民家の特徴要素「葺立」の
軒裏に斜めに板を打ち付け、
暴風雨の吹き上げの
風を逃す工夫

旧魚協舎から「法華寺」へ
向う参道は住民にとっての
憩いの場の豊かな時間が
流れています。最高の町並み
ビューポイントですよ。

「法華寺祖師堂」は文久3年の
建立。見事な「竜」の
彫り物です。

「ふれあいの宿
遊遊NASA」

「クジラ石」
古代信仰の
パワースポット

「愛宕山」

「愛宕神社」

南町の洞穴には
「益田豊後」の墓がある
という伝承があります。

「萬照寺」

「天理教教会」

昔は「鞆千軒」と
いわれるほど栄え
寺も7軒あったと
いひます。（現在4軒）

吉祥山
「法華寺」

素敵な「うだつ」の
ある家

港沿いの通りの奥には
「ほそや」と呼ばれる
路地がのびています。

「お薬師さん」

事件の審議は13年間に
渡り、ついには豊後と、阿波藩
家老「長谷川越前」が幕府評定所で
対決することとなりました。その結果
豊後の有罪は確定しますが、江戸から
阿波への護送中に豊後は病死したと
いわれています。この権力を持ち過ぎた
「城代の謀反」という大事件が、
阿波九城（支城）の廃止に至った
要因ともなりました。

豊後は、阿波藩
から「海部」を分藩
させることを画策して
いたといひられて
います。

「鞆浦海嘯記」
安政年間の大震災の
一つ。嘉永7年11月に
起った「安政南海地震」
での津波被害の様子
を、海部郡代「高木
宗矩（真蔵）」が
記した碑

高倉

北町

仲町

東町

360°
VP

「湊社神社」と
住吉神社」が
合祀された
「徳神社」

「多善寺」

立岩

「大岩供養碑」
慶長と宝永の2つの地震
津波災害の碑
（慶長）（宝永）

「唐火須神社」

「益田豊後事件」
益田家と蜂須賀家は豊臣配下
では同僚で、姻戚関係もあり、
阿波藩の有力な家老として、
江戸家老も兼ねていました。

寛永10年、阿波藩を揺るがせる大事件が起りました。
海部城代を務めていた「益田豊後」が江戸の大火の
折に海部の森林を藩の許可を得ずに伐採して江戸に
送り巨万の利益を得たことなどが発覚し、豊後は大栗山
中に蟄居させられました。しかし、これを不服とした
豊後は蜂須賀家にこそ不正ありと幕府に訴え、
事件は阿波藩の存続に関わる問題に
まで発展しました。

「幕末志士
かいふかんろうおうれんしょう
海部閑六翁顕彰碑」
武芸に秀で、維新の
政治家「岩倉具視」
の護衛として活躍

「母川ホタル祭り」
ゲンジボタルが乱舞
します。

「せりおり岩」
周辺は、国指定
天然記念物の
「オオウナギ
生息地」です。

海部川上流 30km 「轟の滝」

「海部駅」

「ヤコソウ自生
北限地」

奥浦

「海部郡代役所」
（旧御陣屋）
跡地
昔は木材の
集積場でした。

新御陣屋跡
（寛政11年）

「鞆浦橋」

鞆浦では現在でも
「大敷網」漁が盛んです。

「鞆浦港」

鞆浦は、海部川河口南岸に位置する河港性の小さな漁港
です。今なお「古き良き漁師町」の風情を色濃く残した
地域として知られていますが、その歩んできた歴史は波乱に
富んだものでした。中世、「海部城（鞆城）」を中心として
勢力を誇った豪族、「海部一族」は、海部川流域でとれる
「砂鉄」などの豊かな資源を利用し「刀」の創作をはじめ、
数代にわたり積極的に推奨されたことで、独創的で
切れ味を誇る「海部刀」が生まれました。その後、土佐の
「長宗我部元親」の末弟「島弥九郎」が、病氣療養のため
海路で京に向かう途上に「那佐港」に寄港していたところを、
海部城の軍勢に急襲され討死する事件（元龜2年）が
起こります。この事件が引き金となって「長宗我部元親」は
阿波攻めを開始し、天正3年に「海部城」は落城して
しまいました。しかし、その後「豊臣秀吉」の四国征伐
（天正13年）の功績から阿波へ入国を果たした「蜂須賀家
政」によって「海部城」は修築され「阿波九城」の一つと
なりますが、元和元年に徳川幕府が定めた「一国一城
令」をうけ、ついに廃城となりました。しかし、ここでも
鞆浦を国境の要衝として重要視した阿波藩によって「海
部郡代役所（陣屋）」が設置されることとなり、それ以後も、
江戸後期にかけての海部郡に置ける中心地として重要な
位置を占めることになったのです。

史跡海部城跡
森志磨守と
御半形人々墓

判形人
屋敷跡

判形人は、藩からお墨付き
をうけ、不正の取締りや
御番人としての役も
与えられていました。